

タウンミーティング2021第3回【観光】意見交換要旨

● 日 時

令和3年8月4日（水） 10:00～11:30

● 会 場

姫路市防災センター3階 会議室

● 参加者

清元 秀泰 姫路市長

市内の観光事業者など 5名

地域創生を学ぶ学生 2名

● 意見交換の主な内容

【問】リピーターを増やすためには？

【意見】 毎年行っているシーズン毎のイベントが必要だと思う。リピーターが来ない理由の一つが、泊まることを想定したときに、コロナ以前から店舗が早く閉まり、ナイトイベントが京阪神地区に比べて少ないこと。商店街もしくは新たに団体を作って夜を盛り上げるなどの施策が必要だと思う。

【意見】 姫路駅で降りるとまっすぐ正面に姫路城がある。素晴らしい景観だが、だからこそ姫路城に一直線に行ってしまう。姫路に来た人たちは姫路城に行くまでにどこにお金を使っているのか調べた資料を読んだことあるが、そこには「大手前通りに魅力のあるお店が少ない」という、すごく正直な意見があった。姫路城に行くまでに、もっともっと立ち寄りたいお店がある状況をつくるのがまず一つ必要だと思う。

次に、ディープな姫路の魅力があまり知られていないと思う。ものすごく大きな観光地も魅力だと思うが、その他に、目的地に到着するまでにある店などを若い人に周知できたら、もっと魅力があるのではないかと思う。例えば姫路の商店街にすごく高級感がある靴磨きを専門とした店があるとか、他ではあまり見ない店に、若者は注目すると思うので、発信が必要だと思う。

【意見】 私が勤務している宿泊施設にもリピーターがいるが、体感では、姫路城のリピーターはあまりいないように思う。姫路城は素晴らしかったが1回見たから2回目はもういいと思っている方が多い印象だ。日本人の和を愛する心が京都や倉敷の美観地区や彦根城の城下町などの昔ながらの風情のあるまち並みに、揺さぶられやすいと思う。立派な姫路城があるので、駅通りの商店街を、昔ながらのまち並みの風情にしたり、姫路城の北側の土地に新たに城下町風の施設を作って観光客を呼び込むようなことができるトリートしやすい。伊勢のおかげ横丁のような感じで、お城に入らなくても楽しめるような施設があると、地元民も暇つぶしに行ってみようかと思うのではないかと思う。

【意見】 姫路は、お城頼みになっている部分っていうのがたくさんある。姫路城は好きだが、箱のみで周りを見たいものがないと言うような声もよく聞く。解決策として、滞在時間を考えた上で

のまち歩きができる環境作りがとても大切だと思う。例えば早朝イベント、夕方イベントは宿泊にもつながると思う。ただそれ以上に皆さんのご意見をお聞きして、民間企業の努力が少し足りていないようにも思う。例えば伊勢のおかげ横丁は、民間企業の力であそこまでできたと聞いているので、もっと民間企業を巻き込むのが大切だと思う。

本当に恵まれたまちなので、いくらでもストーリーを持たせられると思う。島も山も海も温泉もあって、地場産業もある。それと同時に、おみぞ筋商店街、みゆき通り商店街、大手前通りもある。この辺りでストーリーを持たせられたらよいと思う。例えばおみぞ筋商店街を、アートを使ったような忍者風な通りにするとか、みゆき通りは千姫を中心にした通りにするとか、大手前通りは、ほこみち（歩行者利便増進道路）を活用するなど。民間企業との交渉は、かなり大変だと思うが、週末に興味を持って泊まっていただけるような環境作りが必要になってくると思う。

また、普段見られないような、お得感のある場所をもっとPRするべきだと思う。確か海外からの観光客が1番多いのは中国・台湾で、2番目にヨーロッパの人たちだった。現在、コロナ禍でインバウンドは見込めないが、富裕層の方や若い方等たくさんの対象者に、体験したいことなどの細やかなアンケートを取って検証すべきだ。

姫路は、体験する場所やお店が点になっているが、点ではなくゾーンがあることで、観光客が、行き先を決めたり、宿泊数を増やすことにつながっていくと思う。

瀬戸内DMOという組織があるが、ここが保有するguntu(ガンツウ)というクルーズ船が閑空から出ており、富裕層がすごく興味を持っている。姫路は、いまのところDMOに独自で取り組んでいるが、よい方向に向かえばよいと思う。

【意見】

リピーターの方と話す機会があるが、セントラルパークに来たきっかけは大体SNSという人が多く、意外と面白くて迫力があるからみんなに紹介したいという声もある。意外な楽しみ方、意外に楽しかったという部分が大事だと思う。また、姫路は食の楽しみもある。瀬戸内に位置しており海産物もおいしいし、農産物もおいしいが意外と知られていないので、それをPRするべきだ。貴重な体験や楽しいアクティビティーとまち歩きや商店街などを組み合わせ、点ではなく、面としてパッケージにする。また来たい、1日では足りなかったと思わせることがリピートにつながると思う。

【市長】

大変参考になった。確かにお城を建物として見ると、興味はそこで終わってしまうので、そこにお城を守った人たちの息づかいや、城下町の風情などを持たせたい。

大手前通りの景観の統一とか、商店街は縦筋ばかり目が行きがちだが、通りが背骨だとすると、みゆき通りや大手前通りとかおみぞ筋をつないでいる東西の道路は、肋骨に相当する。そこに入る面白さがあると、まちそのものが楽しめる。点ではなくゾーンでという意見も非常に参考になると思った。

靴磨きの店についても、よいかもしれない。ヨーロッパは、紳士は足元からという文化だ。姫路には、姫革もあり、革のスペシャリストがいる。靴磨きで滞在時間が増えたり、姫路に靴磨きに行こうという人がでてきてもよいのかなと思った。

体験型のものがもっと増えていくとよいが、行政がやると発展しにくい。大手前通りの活性化で、ほこみちという歩行者利便増進道路ができる。民間の方々と共同してそこにどれだけ面白いお店ができるか期待したい。

夜のイベントを、もっとやらないといけないと思っている。例えば姫路城はこれから数年かけて照明をLEDに変えていく。現在は、点灯にも30分程度の時間がかかるため、姫路城をブルーにする場合にも、すごくお金がかかる。しかし、LEDだとボタンで変えることができる。東京タワーは12時になると突然消えるが、それを見るためにホテルを取る人もいるようだ。ほこみちを使った活性化も含めて提案をどんどん出していただいて、協力できることはしたいと思う。他にも手柄山の慰霊塔では、期間を限定して空襲犠牲者のためにライトアップも行っている。

瀬戸内の広域でクルーズの話が出たが、ヨーロッパの人はクルーズが好きなので、例えば広島に行く場合、関空から船で姫路に来て宿泊してもらい、新幹線で広島を日帰り往復してもらうのもよいかもかもしれない。

【問】 宿泊客を増やすには？

【意見】 これは長年の課題だ。たいていの人が姫路城には来るがお城だけ見て帰ってしまう。10年位前の話だが、せっかく姫路城に来てもらっても、何百人も泊まれるホテルがないので神戸で泊まってもらうしかないという話をよく聞いた。

姫路城以外にも魅力的なところがいっぱいあるので、姫路駅に来た観光客に、コースや滞在時間の異なる多様なコースを提示するのはどうか。導線がうまくいけばお城以外も見て回り、その日は泊まって次の日にまた別のコースに行く。2泊くらいのコースを作っても面白いかもしれない。お城には言わなくてもみんな目指して来るので、それ以外の提案が必要だと思う。

広島原爆を語り継ぐ人たちが、どんどん高齢化で少なくなる中、大学生に語り部の教育をして、語り継ぐプロジェクトを作ったニュースを見た。姫路城でもガイド中に些細な情報を伝えると、とても喜ばれる。大学生に勉強してもらい、ボランティアではなく、ちゃんとしたアルバイトとしてガイドができるような取り組みをしてはどうか。色んなアルバイトがある中で、大学生にやりがいのあるアルバイトの提供をする。学生は各地から来られていると思うので、姫路はこんなよいところだと広めてくれると思う。

それから、私は花を見るのが好きなので神戸に行くのが好きだ。神戸はちょっとした道の端やいたるところにフラワーポットがあって本当に素敵であり、姫路もそうになったらよいと思う。山のとっぺんにたった一本立っている桜を見るために車が長蛇の列を作る事例もあるので、花はすごい力を持っていると思う。

【意見】 姫路には魅力ある施設やおいしい食べ物がたくさんあるが、それぞれが連動するイメージがないので、日帰りのイメージにつながっている。宿泊客を増やすためには、PRの仕方や、ここに行くにはこれを食べようとかちょっと贅沢な食事をしようとか。そういう宿泊と連動した楽しみ方のイメージを作り上げることが大事ではないかと思う。観光気分にあつた食の楽しみ方が、滞在時間にも直結するのではないかと思う。

【意見】 滞在時間を長くする工夫が必要だ。夕方イベント・早朝イベントを増やしていき食事・宿泊につなげる。例えば、ヨーロッパのつぶれそうなお城で立て直しを図っているところがある。そこではお城を立て直すために毎週末夕方にイベントを行い、中世のヨーロッパの格好をして、市民が歴史・エピソード演劇みたいなものを作って盛り返した。単発ではなく、長期で市

民も参加していくイベントを行うのがよいと思う。毎週末に定期的なイベントや朝市を充実させたりPRを行ったり、姫路には伝統芸能もたくさんあるので、それをPRするのもよい。とにかく楽しい体験を作る。例えばおみぞ筋を忍者ストーリー、みゆき通りを千姫ストーリーというような形で考えていくのもよいと思う。

観光地域に直接バスを走らせるのは本当に大切で、お城から直接、圓教寺やセントラルパークに行く、宿泊施設に行くといったルート作りが必要だと思う。播磨はお酒も有名なので酒蔵直行バスもよい。

迎える側の努力もすごく必要だ。皆さんすごく具体的な施策を沢山持っているが、旅行会社から、与えられるだけっていうイメージがすごくある。地元の市民もしくは業者が観光会社に提案していける組織づくりやワーキングチームが必要になってくると思う。色々な組織があって、素晴らしいご意見をもっているが、バラバラに動いているようにも思う。

また、今度県立病院ができるが医療ツーリズムをもっと企画してもよいのではないかな。

アクリエひめじができたので、国際会議観光都市として、MICEを積極的に誘致することで宿泊客も増えると思う。

姫路の強みはお城があることだ。婚礼場所では、お城の隣に護国神社があり、ヨーロッパの新郎さんが多い。海外の方から人気があるので、和を中心にしたブライダルを進めていきたい。

いままで姫路はホテル関係の人がそれぞれに努力をしていた。しかし今回コロナで色々なプランを共有するようになり、本当によい方向に進んでいるので、今後も強化していくとよいと思う。

あと、富裕層の泊まる高級なホテルがないので、すぐにどこかから誘致しようという話になると思うが、綺麗な一軒家が結構沢山あると思うのでそういう綺麗な一軒家を富裕層の人達に泊まっていただけるような施設にしてみるのもよいと思う。

【意見】 大学で同様の質問について学生同士で話し合った際に、ナイトイベントの実施がやはり大事だという意見や、観光先と宿泊先とのタイアップがいちばん重要ではないかという話があった。お得感があると大学生は旅行に行きやすい。私も以前はどの宿泊先に泊まればここに行けるという情報をすごく色々調べて行っていた。ただ、たくさん調べているうちに結局どこも同様の特典ばかりだという印象が残っているので、本当にこの宿泊施設だけの特典を作るのが重要だと思う。

点を面にするというお話もあったが、以前、太陽公園に行こうとしたが、バスで行くには一度姫路駅まで出ないといけないため、結局行かなかったことがあった。観光地同士をつなぐのはすごく重要だと思う。観光客にとっては宿泊先から観光地、観光地から観光地、また観光地から宿泊先に行ける手段があればもっと利用する方も結構多いのかなと思う。

あと、たつの市のまち歩きマップが面白い。授業のプロジェクトの関係でトータル10回くらいたつの市を訪れたが、何回行っても面白い。そのマップには、朝から晩まで楽しめる施設が書いてあり、そういうまち歩きマップを作っていくのはとても重要ではないかと考えている。

【意見】 私は大学で特にグリーンツーリズムを勉強している。専門家の方と、コロナが終わるまでどういう風に観光をやっていくかという話をした時に、観光の目的で観光客を呼ぶのは無理か

もしれないので、観光から視点を切りかえた方がよいかもしれないと仰っていて色々調べた。ひとつの方法として、ワーケーションがあると思う。ワーケーションはワークとバケーションを組み合わせた造語で、ワーク（仕事）をしながらバケーション（休暇）を取り、職場や家ではない第3の場所でリフレッシュしながらワークしようという考え方だ。Wi-Fiを整備して、働きやすい宿を作って人を呼ぶ手法で、結構成功しているところもあり、面白いと思う。姫路でやるとしたら少し独自性をつけて、仕事終わりくらいの時間の夕方5時以降に参加できるようなプログラムと一緒に組んでツアーをする、短時間でさっと回れるけどすごく楽しいというワークとツアーを組み合わせた1週間位のパッケージで売れるのも面白いと思う。

場所は都会でも、農村でもどっちでもよいと思うが、都会のメリットは、姫路城や面白い場所が揃っているのでツアーを組みやすいところ、農村部のメリットは場所と場所が離れているので感染リスクが少ないところだ。農村部の古民家をリノベーションして使うのが結構人気があるが、リノベーションにすごくお金がかかる。元々ある使えそうな古民家を使うとなると、そこに全ての機能（Wi-Fi、食事処、温泉）を集約するのも難しい。ともすれば、ひとつのホテルを新しく作るようなことになる。アルベルゴ・ディフーズというイタリアの事例があるが、これは分散したホテルというもので、本来1つのホテルが持つ機能を、村のコミュニティ中に分散しようという考え方だ。ホテルには通常、レセプション、食事処、温泉などの機能が集約されており、ひとつの建物になっているが、その機能を村中に分散させて、食事処はここ、温泉はここという風にして、まちを歩きながらホテルを楽しんでもらうという風に、ホテルの機能を1つ1つ分散して共同体みたいな形にしたら理想だなと思っている。

【意見】 本当に大事なものは観光地から観光地をつなぐバスのルートだと思う。観光地に行くためにその都度姫路駅を経由すると、移動だけで1時間以上かかってしまい断念される方が本当に多い。観光地から観光地をつなぐバスのルートの開発を早急にしていただけたらよいと思う。宿泊を増やす1番のキーポイントはやはり夜や朝だ。1番成功したのは竹田城だと思うが、あれはSNSから始まったことだと思うが、雲海は早朝でないと見られない。特に手を入れずとも、ああいいう既存のものの角度や切り口を少し変えて映し出すことができれば若い方の中にも響くと思う。

琵琶湖バレイの上に琵琶湖テラスができています。冬の間はスキー場として営業されているが、夏にどうにか集客したいと考えた結果、できたのかなと思う。書写山にもあいったものを作ったら若い子たち来るのではないかなと思う。あいったポイントが各地にあれば施設を見たい年配の方も、その施設の歴史を知らない若い方も立ち寄れて、そこに行って学ぶことができ、皆が笑顔になれるのではないかなと思う。それらを回するには時間が足りないので、宿泊につながっていけばよいと思う。先ほどのイタリアの宿泊施設の件やワーケーションは、やっぱり個人でしようと思う方は、よっぽどの収入がある方になる。仕事をするためにそれだけのお金を払うとなると、どうしてもハードルが高くなるので、企業に対して市から援助をしてもらえると、企業としても、ワーケーションに補助がしやすくなり、従業員も行きやすく、施設も受け入れやすいと思う。

【問】 ウィズコロナ／アフターコロナに向けて必要な取組は？

【意見】 まずは、しっかりと感染症対策を行っていただきたい。少しずつ観光客が戻りつつあると思

うが、対策が少し緩くなってきている印象をすごく受けている。

一人旅の推奨をしていただきたい。私も元々旅行が好きだが、コロナで行けなくなり、大人数で動くのはダメという風潮なので、一人で行こうと考えている。おひとり様プランは調べてもあまり出てこない印象があるので、おひとり様プランやコースを作ったら行きやすいと思う。宿泊でおひとり様、観光のルートでもおひとり様と両方作ることで大人数での行動を少し制限しつつも、観光を活性化することができるのではないかと考えている。

【意見】 先程おひとり様の提案があったと思うが、雑誌でも神戸だと一人旅、一人で楽しいカフェ巡りがある。中には一人で長時間滞在することに耐性がない方もいると思うので、一人で行きつつ繋がれる、市の魅力がわかるような仕組みも作っていく必要があると思った。

あと、密にならないイベントの実施や、美味しいものやお酒、発酵食も播磨地域の強みだと思っているので、テイクアウトやネットでお取り寄せをし、終息した後は、その産品が良かったから蔵を見に行こうとか、生産地に行こうという流れが組めるプラットフォームが必要かなと思う。

【意見】 姫路に観光客を呼ぶ、姫路城を活性化させるためには土台になる私たち姫路市民がまず、姫路ってええところやな、お城ってすごいね、という意識を持つことが一番だと思う。

姫路東高校の選択授業の中で姫路城学というのがある。今から7年8年前くらい前の校長先生が、姫路でいちばんお城に近い学校の生徒が姫路城のことを知らないかん、というので姫路城学という授業を作られた。授業やお城見学を通して高校2年生が1年間研究した結果を最後に全体に発表する。そうすると、その教科をとらなかった子も、姫路城のことを勉強できるという、よいシステムを作っている。この取組を東高だけじゃなく他の学校にも波及してもらえたらよいと思う。官兵衛の時に経験したが、それを機会に、千姫って面白いな、すごいなという風に市民の力が下から湧き上がって、よい方向に行くのではないかなと思う。大河ドラマになったらものすごい経済効果があるので、次は千姫を大河ドラマにできたらよいと思う。

【市長】 大河ドラマについては、エピソードにして放送されるだけですごい経済効果があるので、連携しながら行政としても、市長としてお願いしていきたい。

このまちで生まれ育った者の誇りとして、身につけていくべき姫路城学は市立高校が3校もあるので、それを採り入れるようにできればと思う。あと花のまちはやはり大事だ。来年の5月にアクリエひめじで開催される「全国花のまちづくり姫路大会」の誘致に成功した。ガーデンフェスティバルなどともタイアップしながらやっていきたい。

MICEの話も、せっかく9月からアクリエひめじができるので、学会や全国大会の誘致を行い、大学の会合などにも使ってもらいたい。医療ツーリズムとまではいかないが、横に県立病院もできるので、今までとは違うような学会や宿泊を伴うようなイベントもいくつか立候補している。

現在プレオープンで高田賢三さんの展示会を開催しているが、その他コンサートも含めて文化発信の拠点の一つできたので、教育や文化を通じてこのまちの格を上げていき、よいまちだと市外の方に思ってもらえることが、リピーターを増やしていくことにもつながると思う。

ただ姫路市は発信力が弱い。例えば、令和2年2月までハリウッド映画「G I ジョー3 漆黒のスネークアイズ」のロケが姫路城、書写山や亀山の本徳寺で行われていた。本来なら去年の

クリスマスに公開予定だったが、コロナ禍で延期され、今年の10月22日に全国一斉公開となる。なぜ10月22日になったかというとなんか22はニンニンだから忍者の日ということのようだ。姫路市もまだあまりPRしていないが、もっとPRすれば、商店街等で忍者の格好で試写会を行う、ついでに忍者の格好の人はワンドリンクサービスをするなどできるのではないかな。他にも千姫と忠刻の当時の着物を数千万円かけて復元し、文化庁と一緒に生きた歴史として展示しているが、こういうものを民間の方がもっと活用してよいのではないかな。サービスをパッケージ化するとか、観光地と宿泊地を結ぶとか、点と点を結ぶつながりが大事だと思う。

私も過去、世界各地の学会に参加したことがあるが、ほとんど一人旅だった。最近は飲食店でも、全部カウンターがおひとり様用になっているところもあるので、おひとり様でも魅力あるような、お得感が出るようなパッケージを充実させていくのも重要かもしれない。

農村部の古民家の体験もひとつのアイデアとして、かかしの里でそういうのをやれたら面白いかもしれない。

ワーケーションも、確かにその日の気分でできる人はほんの一握りしかいない。行政が補助して企業がワーケーションを従業員に勧められるような施策を考えるのも大事なこともかもしれない。

食については、地場産品をテイクアウトしてもらったり、お酒を飲んだから今日は帰れないし泊まっていこうというような流れであったり、飲食店と他業種がタイアップしたクーポンセットを作ったり、アフターコロナはみんなで乗りきっていこうという考えが重要だと思う。

あと、姫路の港から西側の瀬戸内海は内港のみで、水深が浅くて島が多いため、大型のクルーズ船は姫路港までしか来られず、そこからは内港クルーズを使わないと難しい。閑空にお客さんがこられた場合、姫路港まで来ていただいて、そこから内港に乗り換えて行くなど、新たに海のポートターミナルを県と一緒に再開発しようという考えがある。

琵琶湖テラスの話も出たが、それを書写山の上に作るのもよいかもしれない。実は書写山の山上駅は、テラスを作って改修する予定がある。官のプロジェクトだけだと魅力あるものにするのは難しい。道の駅にしても、トイレや駐車場やインフォメーションセンターなどのベースは官が作り、敷地を挟んで民と共有する形であり、官と民が、一緒に賑わいを作っていきたい。官と民が共に考え、共に走って行くための政策を作っていくことが非常に重要だと思う。

今日は各方面の方々から、色々なテーマで色々なアイデアをもらった。色々なアイデアに官と民で手を取り合って取り組んでいきたい。情報の発信力の弱さも痛感しているので、しっかりと手を取り合い、アフターコロナには、必ず行きたいまちナンバーワンになるように、そしてその次は住みたいまちナンバーワンを目指して頑張っていきたい。